

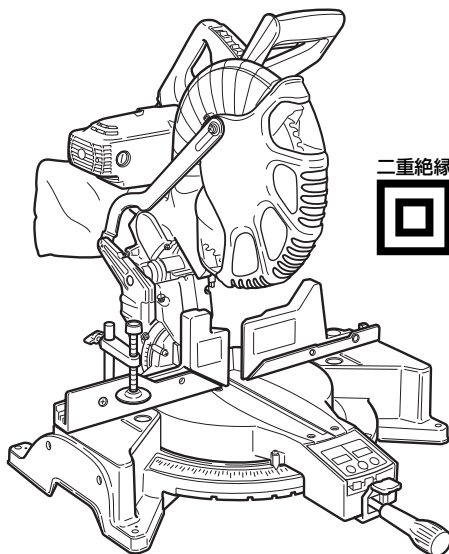
HiKOKI

卓上丸のこ

305 mm C 12LDH

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
卓上丸のこの使用上のご注意	5
各部の名称	8
仕 様	9
標準付属品	10
別売部品	10
用 途	12
作業前の準備	13
ご使用前に	15
切断する前に	17
切断方法	26
のこ刃の取付け・取りはずし	33
保守・点検	34
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠警告」、「⚠注意」、「注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてを良くお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ **感電に注意してください。**
電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ⑤ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ **無理して使用しないでください。**
安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

警告

- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のついた所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、良く切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードを点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - 延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。**
 - 使用しない、または、修理・調整・点検する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ **不意な始動は避けてください。**
 - 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ **屋外使用に合った延長コードを使用してください。**
屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⚠警告

⑱ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

この取扱説明書および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

回 二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に回マークで表示してあります。

純正品以外の部品と交換したり、間違っ組立てたりすると二重絶縁構造でなくなり、電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

卓上丸のこの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、卓上丸のこのこととして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① **使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。**
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
(詳細は、15 ページの「1. 使用電源を確かめる」の項を参照してください。)
- ② **保護カバーは、絶対に固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。**
のこ刃が露出したままですと、けがの原因になります。
- ③ **のこ刃は、外径 290 ~ 305 mm の範囲のものを使用してください。**
使用範囲からはずれたのこ刃を使用すると、保護カバーを切断したり、覆いが不完全となり、けがの原因になります。
- ④ **切断中に、材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように、切断する材料の受け台を設けてください。**
のこ刃がはさみつけられると、けがの原因になります。
- ⑤ **使用中は、のこ刃や回転部、切りくずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。**
けがの原因になります。
- ⑥ **材料切断後、のこ刃が完全に停止してからハンドルを持ち上げてください。**
材料切断後、のこ刃を回転させたままハンドルを持ち上げると、強い反発力が生じたり、材料がのこ刃に巻き込まれて周囲に飛散することがあり、けがの原因になります。
- ⑦ **のこ刃を押し下げるときは、サイドハンドルやデジタルディスプレイに手をかけないでください。**
サイドハンドルやデジタルディスプレイに手をかけていると、のこ刃を下げたとき、のこ刃が手に近づき、けがの原因になります。
- ⑧ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちにスイッチ引金を切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑨ **誤って落としたり、ぶつけたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことを良く点検してください。**
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

 **警告**

- ⑩ 材料切断時は刃口板とのご刃のすきまより薄い切り落しはしないでください。薄い切り落しをする場合は切り落し幅よりすきまが少なくなるよう、刃口板の位置調整をしてください。

切り落し材が刃口板とのご刃のすきまに入り込み、切り落し材が周囲に飛散し、けがの原因になります。

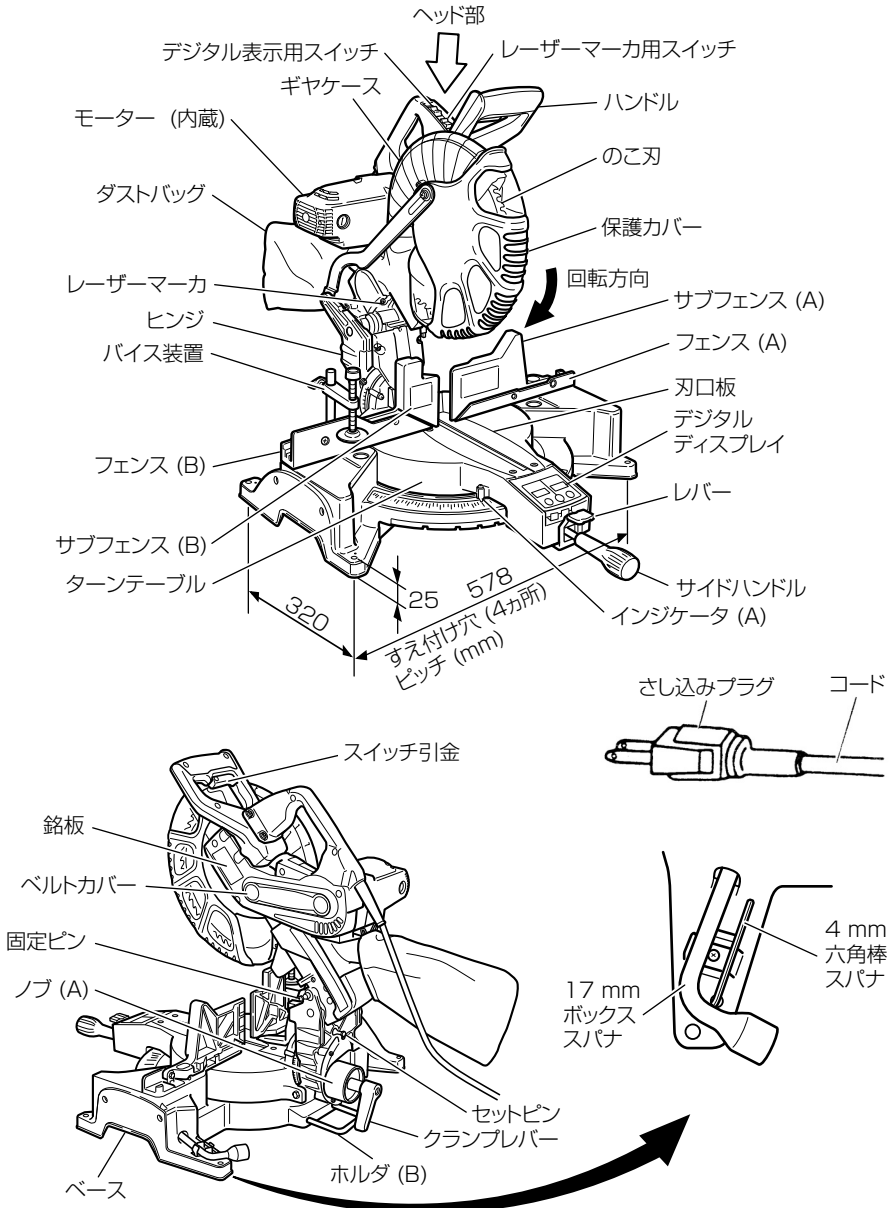
- ⑪ 切断作業時は作業者以外、作業場へ近づけないでください。

高速で回転しているのご刃に材料が巻き込まれて周囲に飛散するなど、けがの原因になります。

⚠️ 注意

- ① 刃物類（のこ刃など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
のこ刃が破損し、けがの原因になります。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
手袋をして作業すると、回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
- ④ 作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
異常があると、思わぬ動きをして、けがの原因になります。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
ヘッド部（8 ページの上図参照）が急激に下降し、けがの原因になります。
- ⑥ レーザーの光を直接のぞきこまないでください。また、レーザーマーカを取りはずして、別用途で使用しないでください。
レーザーの光が目直接当たると、目を傷める原因になります。
- ⑦ 材料に釘などの異物が付いてないことを確認してください。
刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。
- ⑧ 切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に乗せたまま作業しないでください。
手を切ったり、コードを切断し、感電の恐れがあります。
- ⑨ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っかけたりしないでください。
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。

各部の名称



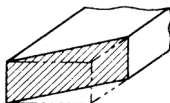
仕 様

使用電源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V				
全負荷電流	15 A				
消費電力	1,400 W				
モーター	単相直巻整流子モーター				
デジタルディスプレイ	表示制度 ± 0.5°				
レーザー出力	0.4 mW 以下 (クラス 1 M)				
使用できる丸のこ	外径 290 mm ~ 305 mm × 穴径 25.4 mm				
無負荷回転数	4,000 min ⁻¹ { 回 / 分 }				
最大切断寸法	ヘッド	ターンテーブル	最大切断寸法		
角度切断	0°	0°	最大高さ 70 mm のときの最大幅 203 mm 最大高さ 89 mm のときの最大幅 190 mm 最大高さ 107 mm のときの最大幅 124 mm ※ [30]		
			0°	左・右回転 45°	最大高さ 70 mm のとき最大幅 140 mm 最大高さ 89 mm のとき最大幅 130 mm
			0°	左・右回転 52°	最大高さ 70 mm のとき最大幅 120 mm 最大高さ 89 mm のとき最大幅 114 mm
	傾斜切断	左傾斜 45°	0°	最大高さ 50 mm のとき最大幅 203 mm 最大高さ 55 mm のとき最大幅 190 mm	
	複合切断	左傾斜 45°	左回転 45° 右回転 31°	最大高さ 50 mm のとき最大幅 140 mm 最大高さ 55 mm のとき最大幅 130 mm	
	傾斜切断	右傾斜 45°	0°	最大高さ 31 mm のとき最大幅 203 mm 最大高さ 38 mm のとき最大幅 190 mm	
	複合切断	右傾斜 45°	左・右回転 45°	最大高さ 31 mm のとき最大幅 140 mm 最大高さ 38 mm のとき最大幅 130 mm	
角度切断範囲	左・右 0° ~ 52°				
傾斜切断範囲	左・右 0° ~ 48°				
複合切断範囲	左傾斜 0° ~ 45°、左回転 0° ~ 45°、右回転 0° ~ 31° 右傾斜 0° ~ 45°、左・右回転 0° ~ 45°				
すえ付け寸法	幅 578 mm × 奥行 320 mm				
質量	22 kg				
コード	2 心キャブタイヤケーブル 5 m				

※印の最大切断寸法を切断するときは、フェンス面へ [] に示した厚さの当て板を用います。

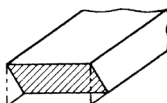
角度切断

ターンテーブルを左右にまわす。



傾斜切断

ヘッド部を傾ける。

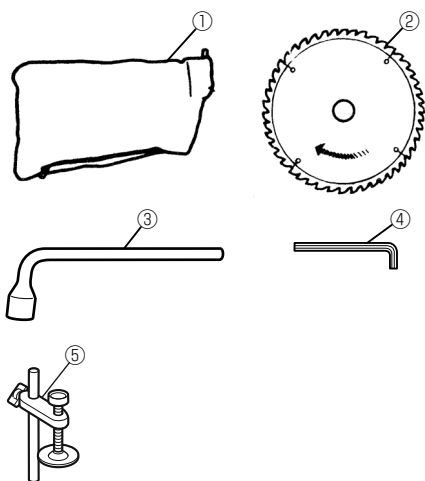


複合切断

ヘッド部位を傾け、ターンテーブルをまわす。



標準付属品



- ① ダストバッグ 1 組
- ② 305 mm チップソー (刃数 90)
(本体付属) 1 枚
- ③ 17 mm ボックススパナ 1 個
- ④ 4 mm 六角棒スパナ 1 本
- ⑤ バイス装置 1 組

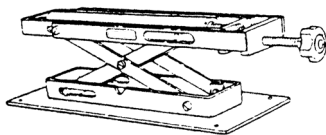
別売部品

..... (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

1. チップソー

外径	刃数	用途
305 mm	60	木材用
305 mm	96	木材用
305 mm	80	アルミサッシ用

2. 卓上丸のこ用補助ローラ (高さ 50 ~ 160 mm 用)



長尺物の材料支持としてご使用になると便利です。

3. ホルダ (ストップとのセットになります。)

長い切断材料を安定させるのに便利です。

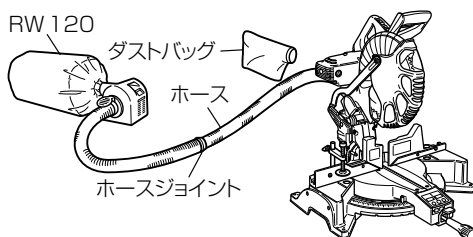
使用方法は、19ページの「5. ホルダの取付け」の項をご参照ください。

4. ストップ (ホルダとのセットになります。)

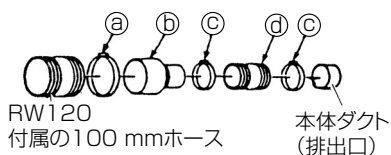
定寸切りにはストップを使用して作業すると便利です。

使用方法は、19ページの「6. ストップの取付け」の項をご参照ください。

5. 接続用別売部品 (木工用集じん機 RW 120)



木工用集じん機 RW 120
接続時にご使用ください。



ホースセット (A)(①、②を含む)

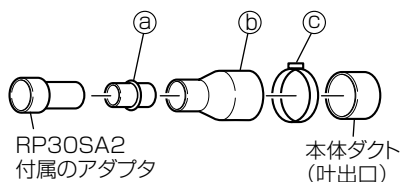
① ホースバンド (呼び径 100 mm)

② ホースジョイント

③ ホースバンド (呼び径 65 mm)

④ ホース (呼び径 65 mm)

6. 接続用別売部品（電動工具用集じん機 RP 30SA2）



電動工具用集じん機 RP 30SA2
接続時にご使用ください。

- ① ジョイント
- ② アダプタ（呼び径 60 mm）
- ③ ホースバンド（呼び径 65 mm）

用 途

⚠ 警告

- **金属系サイディングボードなど用途以外の材料を切断しないでください。**
金属の切りくずが周囲に飛散し、火災やけがの原因になります。

- 各種木材の切断
- 各種合板、化粧板、軟質繊維板、ハードボードなどの切断
- アルミサッシ材の切断

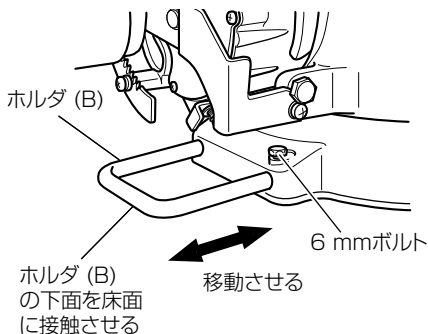
作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1. 漏電しゃ断器の確認

この機体は二重絶縁構造で、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

2. すえ付け



傾斜のない平坦な場所へ、安定した状態にすえ付けます。

機体を安定させるため、ベース後方に標準付属のホルダ (B) を左図のように取付けます。

スパナで 6 mm ボルトをゆるめ、ホルダ (B) 下面が床面に接するようホルダ (B) を移動させ、6 mm ボルトで確実に締め、固定します。

機体を作業台などに固定してすえ付ける場合は、ベースのすえ付け穴 (4 カ所、内径 9 mm : 8 ページの上図参照) をご使用ください。

固定には 8 mm ボルトを使用します。

3. 延長コード



警告

- 延長コードは、損傷のないものを使用してください。

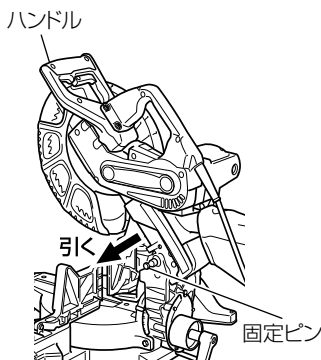
コードの太さ 1.25 mm² 以上の太さで、できるだけ短いコードをご使用ください。

コードの太さ (mm ²) (導体公称断面積)	最大の長さ (m)
1.25	10
2	15
3.5	30

左表は使用できるコードの太さと、最大の長さです。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

4. 固定ピンを解除する



工場出荷時にはヘッド部を固定ピンで下限位置に固定しています。

(左図参照)

ご使用に先だち、固定ピンを矢印方向に引きぬいてください。

固定ピンはハンドルを少し下げながら操作すると容易にぬきさしできます。

運搬するときは、ヘッド部を固定するため、ハンドルを押し下げ固定ピンをさし込みます。

5. ダストバッグおよびバイス装置の取付け

標準付属のダストバッグおよびバイス装置は 8 ページの上図のように取付けてください。

6. 作業環境の整備・確認

作業する場所が、2 ページの「電動工具の安全上のご注意」①、②、④項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

⚠ 警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～6項については、さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、のこ刃や機体が破損する恐れがあります。また、直流電源、エンジン発電機および昇圧器などのトランス類で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる

⚠ 警告

- スイッチ引金を引いた状態で、さし込みプラグを電源コンセントにさし込まないでください。
スイッチ引金を引いたままですと不意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。

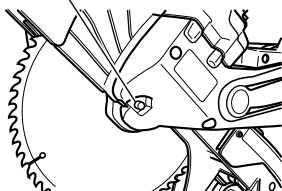
スイッチ引金を引くと入り、はなすと切れます。スイッチ引金をはなしたとき引金に戻ることを必ず確認してください。(左下図参照)

3. スピンドルロックの確認

⚠ 警告

- 回転中は、スピンドルロックを押さないでください。またスピンドルロックを押したまま(のこ刃軸を固定した状態)でスイッチ引金を引かないでください。

スピンドルロック



のこ刃の取付け、取りはずしに使用するスピンドルロックが解除されていることを確認してください。

4. のこ刃の締付けを確かめる

のこ刃の締付けを確かめてください。詳しくは 33 ページの「のこ刃の取付け・取りはずし」の項を参照してください。

5. のこ刃の面振れ点検

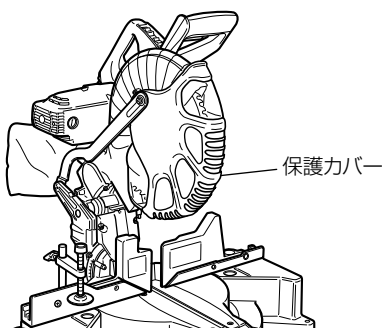
のこ刃軸を付属の 17 mm ボックススパナで、のこ刃軸端面から見て反時計方向へまわし、面振れを点検してください。面振れが大きいと正確な切断ができなくなります。また、振動の原因になります。この場合、速やかにお買い求めの販売店にお問い合わせください。

6. 保護カバーの確認

警告

- 保護カバーは、絶対に固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。

のこ刃が露出したままですと、けがの原因になります。



保護カバーは、身体がのこ刃に触れるのを防ぐものです。この保護カバーが円滑に動かないまま使用したり、取りはずして使用することは法律で禁じられています。

必ず保護カバーがのこ刃をおお
うように円滑に動くことを確認し
てください。

万一、保護カバーが円滑に動
かない場合は、決してそのままお
使いにならないでください。

この場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。また、保護カバーに切りくずなどが付着して、のこ刃が見にくくなったときは、布などで拭き取ってください。

7. 電源コンセントの点検

さし込みプラグをさし込んだとき、電源コンセントがガタガタだったり、さし込みプラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

8. ブレーキがかかることを確かめる

警告

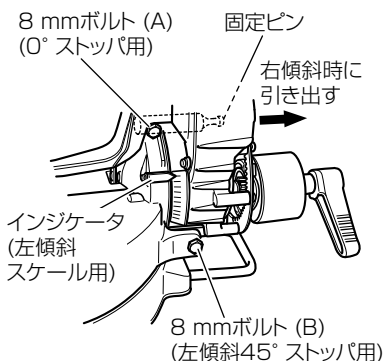
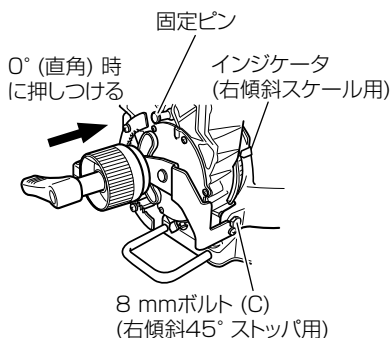
- 使ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
ヘッド部（8 ページの上図参照）が急激に下降し、けがの原因になります。

この機体はスイッチ引金をはなすと同時にブレーキがかかる構造になっています。

ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。万一正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

切断する前に

1. 直角および傾斜角度の確認



工場出荷時は、ヘッド部（8 ページの上図参照）が0°（直角）、左傾斜45°および右傾斜45°で止まるように8 mm ボルト (A)、(B) および8 mm ボルト (C) の高さを調整しています。（左上図、左下図）

ヘッド部の0°（直角）停止位置を変える場合は、8 mm ボルト (A) を、また左傾斜45°停止位置を変える場合は、8 mm ボルト (B) をまわして位置を変えます。（左上図）

右傾斜45°停止位置を変える場合は、8 mm ボルト (C) をまわして位置を変えます。（左下図）

また、右傾斜をさせるには、右下図のように固定ピンを矢印方向に引き出してから右傾斜させます。

ヘッド部を0°位置にするときは、固定ピンをもとの位置（左上図の矢印方向）に必ず戻してください。

2. 材料の固定方法

警告

- 材料は、フェンス面へ確実に押し当て、バイス装置で確実に固定してください。

手や足など身体で押えると、けがの原因になります。また、切断精度が悪くなるばかりでなく、機体を損傷する原因になります。

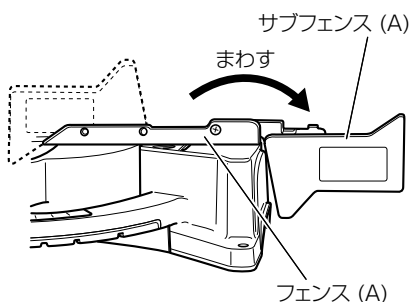
材料をフェンス面へ確実に押し当てて、バイス装置により確実に固定します。フェンス面へ確実に接触していなかったり、バイス装置の締付けが不十分な場合、材料が周囲に飛散し、けがの原因になります。

バイス装置の使用方法は、26 ページ「2. バイス装置の使い方」の項を参照してください。

3. サブフェンス (A) 位置の確認

警告

- 右傾斜切断の場合は、サブフェンス (A) を右にまわして作業してください。右にまわさないとサブフェンス (A) に本体やのこ刃があたり、けがの原因になります。



この機体には、サブフェンス (A) が付いています。(左図参照)

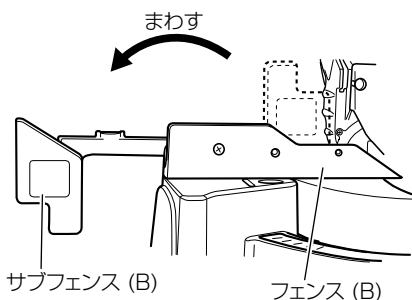
角度切断時にご使用ください。材料の支持面が広く安定した切断ができます。

右傾斜切断の場合は、サブフェンス (A) を左図のように右側へまわしてください。

4. サブフェンス (B) 位置の確認

警告

- 左傾斜切断の場合は、サブフェンス (B) を左にまわして作業してください。左にまわさないとサブフェンス (B) に本体やのこ刃があたり、けがの原因になります。

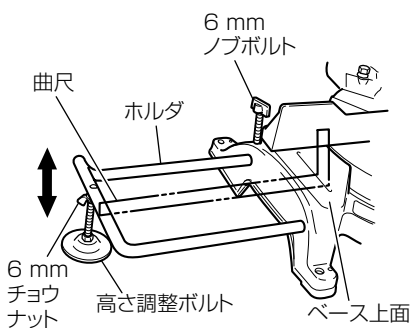


この機体には、サブフェンス (B) が付いています。(左図参照)

角度切断時にご使用ください。材料の支持面が広く安定した切断ができます。

左傾斜切断の場合は、サブフェンス (B) を左図のように左側へまわしてください。

5. ホルダ (別売部品) の取付け

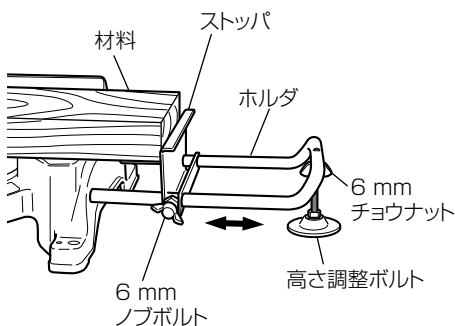


ホルダは長い切断材料を安定させるものです。曲尺などを使用し、ベース上面とホルダ上面が一致するようにします。6mm チョウナットをゆるめ、高さ調整用ボルトを回して、ホルダを上下方向に移動し、調整します。(左図)

調整後は 6mm チョウナットを確実に固定し、6mm ノブボルトでホルダを固定します。

高さ調整用ボルトの長さが足りない場合は、下に薄板を敷いてください。また、高さ調整用ボルトの先端はホルダから出張らないようにしてください。

6. ストップ (別売部品) の取付け



ストップは左図のように取付けます。寸切りにはストップを使用して作業すると便利です。

ストップは、6mm ノブボルトでホルダに固定します。また、6mm ノブボルトをゆるめるとストップは矢印方向に移動できます。

7. レーザーラインの位置調整

⚠ 警告

- さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、機体およびレーザーマーカ用スイッチが OFF (切) になっていることを確かめてください。
- レーザーラインの位置調整は、さし込みプラグを電源コンセントにさし込んで作業をするため、スイッチ引金の操作には十分注意してください。
不意にスイッチ引金を引くとこの刃が回転し、思わぬ事故の原因になります。
- レーザーマーカを取りはずして、別用途で使用しないでください。

⚠ 注意

- レーザーの光 (ビーム) を直接のぞきこまないでください。レーザーの光が目には直接当たると、目を傷める原因になります。また分解しないでください。機体には、レーザーの基準規格により、次のラベルが貼付けてあります。



レーザーラベル

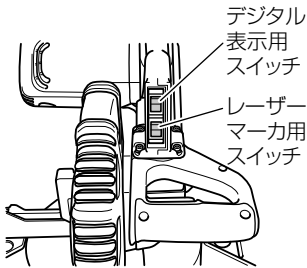


レーザー説明文

- レーザーマーカ、機体に強い衝撃を加えないでください。
レーザーラインの位置が狂ったり、レーザーマーカの損傷や寿命低下の原因になります。
(レーザーマーカに不具合が生じた場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。)
- レーザーマーカのスイッチに、防じん用カバーを取付けています。スイッチのカバーに傷を付けたり、破いたりしないよう注意してください。
スイッチ部に切りくずなどが入り、レーザーマーカが点灯しなくなる場合があります。

- 注** ●レーザーマーカは切断作業のときだけ点灯してください。
レーザーマーカを長時間連続で点灯させると、レーザーマーカの寿命低下の原因になります。
- 墨線とレーザーラインを重ね合わせて切断するようにしてください。
墨線とレーザーラインが重なると光の強弱が変化し、一致していることが分かりやすくなり、切断誤差が少なく、安定した切断作業ができます。
 - 屋内の窓際や屋外の作業で、太陽光によってレーザーラインが薄く見えにくい場合は、太陽光が直接当たらない場所で、作業してください。
 - ヘッド部後方のコードを引張ったり、指や木材などを引掛けないでください。
コードが断線し、レーザーマーカが点灯しなくなります。

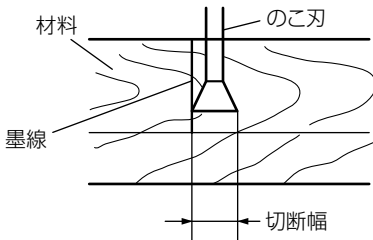
この機体は、レーザーマーカにより墨線合わせが容易にできます。



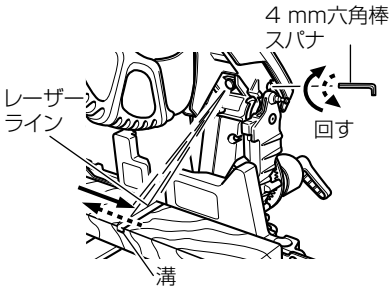
レーザーマーカを点灯する場合は、まずデジタル表示用スイッチをON(入)にし、次にレーザーマーカ用スイッチをON(入)にします。デジタル表示用スイッチがOFF(切)になっているとレーザーマーカは点灯しません。(左下図)

切断用途により、左中図に示すようにレーザーラインは、切断幅(のこ刃)の左側、または右側の墨線に合せることができます。

レーザーラインは、工場出荷時にのこ刃幅内に合せています。ご使用の用途に合わせて、次の手順でのこ刃とレーザーラインの位置を調整してください。



- (1) レーザーマーカを点灯し、高さ 20 mm、幅 150 mm 程度の板材に深さ 5 mm 程度の溝を入れます。溝を入れた材料はバイスで固定したまま動かさないようにします。
- (2) 次に、レーザーラインを移動します。(4 mm 六角棒スパナを時計方向に回すとレーザーラインは右へ、反時計方向に回すとレーザーラインは左へ移動します。)



墨線をのこ刃の左側に合せて作業する場合は、レーザーラインを溝の左端に合わせます。(左下図)また、のこ刃の右側に合せる場合は、レーザーラインを溝の右側に合わせます。



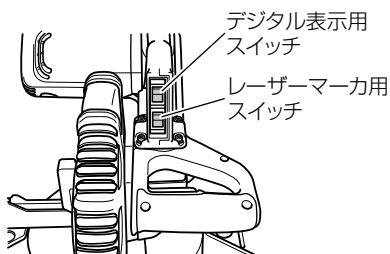
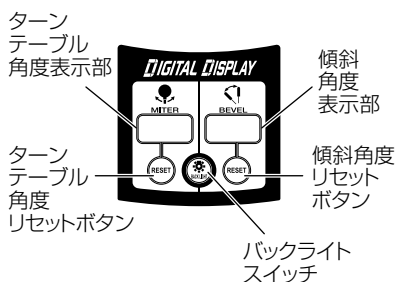
- (3) レーザーラインの位置を調整後、板材に直角な墨線を引き、レーザーラインに墨線を合せます。墨線を合せる場合、材料を少しずつずらし、墨線にレーザーラインが重なる位置でバイスにより固定します。

再び溝入れ作業をして、レーザーラインの位置を確認します。

レーザーラインの位置を変えたい場合は、再度(1)から(3)の順序に従い調整します。

- 注** •定期的にレーザーラインの位置が狂っていないか確認してください。点検方法は、高さ 20 mm、幅 150 mm 程度の板材に直角な墨線を引き、墨線にレーザーラインが合っていること {墨線とレーザーラインの狂いが墨線幅 (0.5 mm) 以下} を確認してください。もし不具合が生じた場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

8. デジタルディスプレイについて



この機体はターンテーブルの角度と傾斜角度をデジタル表示するパネルがターンテーブル前部にあります。

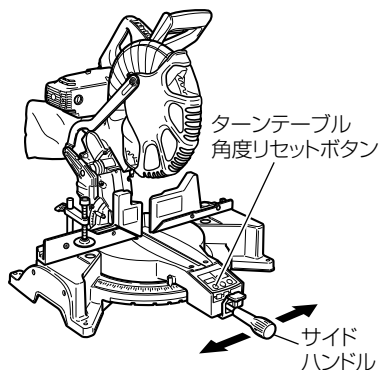
デジタル表示用スイッチを ON(入)にすると機体の角度とは関係なく、「00.0」を表示します。

切断作業をする前にターンテーブル、およびヘッド部を 0°にし、その状態で、それぞれのリセットボタンを 0.2 秒間以上押ししてください。これにより、デジタル表示はそれぞれ「00.0」と表示されます。

この状態でターンテーブルを右側へ回転するとターンテーブル角度表示部に「→」とその時の角度が 0.5°刻みに表示されます。同様に左側へ回転すると表示部に「←」とその時の角度が 0.5°刻みに表示されます。(角度ストップのある 31.6°部では「31.6」と表示されます。

また、ヘッド部を左 45°方向に傾斜させると傾斜角度表示部に「←」とその時の傾斜角度が 0.5°刻みに表示されます。傾斜を 0°方向に戻す時は表示部に「→」とその時の角度が 0.5°刻みに表示されます。

デジタル表示が暗く見にくいときはバックライトスイッチを押してください。表示部が明るく点灯します。また、もう一度バックライトスイッチを押すと点灯しなくなります。



サイドハンドルをゆるめ、ターンテーブルを左右に動かし、正規な位置にする

注 • ターンテーブルを角度ストップにセットしたとき、ターンテーブル角度と表示角度が一致しない場合（例えば、 45.0° のとき 45.5° 、 22.5° のとき 23.0° ）は、ターンテーブル位置が正規な位置からわずかにずれている可能性があります。そのような場合は、サイドハンドルをゆるめ、ストップ位置でターンテーブルを左右に動かし、正規な位置になるようにしてください。

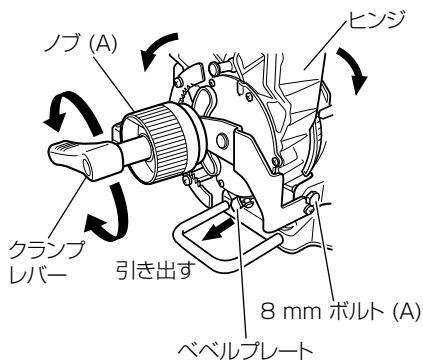
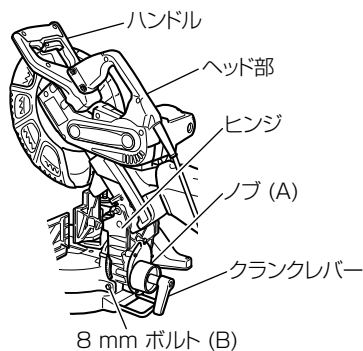
それでも表示が一致しない場合はターンテーブルを一旦、 0° ストップ位置に戻し、その状態でターンテーブルを左右に動かし、正確な位置にセットした後、ターンテーブル角度リセットボタンを押してください。

- デジタル表示用スイッチが OFF (切) になっているとレーザーマーカは点灯しません。
- 発電機などのノイズが発生する機械のそばでは機体を使用しないでください。デジタル表示が誤動作する場合があります。

9. 傾斜角度の微調整について

警告

- ヘッド部を仮止めする際、締付けが弱いとヘッド部が急に動き、けがの原因になります。ヘッドが動き出さないように仮止めの締付けには十分注意してください。
- 調整後は必ずクランプレバーを本締めし、ヘッド部が固定されていることを確認してください。ヘッド部を固定せずに傾斜切断しますと不意にヘッド部が動き、けがの原因になります。



この機体にはヘッド傾斜角度の微調整機構がついています。下記により調整してください。

- (1) ヘッド部のハンドルを持って、ヘッド部を任意の傾斜角度に位置決めし、クランプレバーを軽く締付けて仮止めします。
このとき、ヘッドが動き出さないように締付け力には十分注意してください。
- (2) ハンドルを持ちながらノブ (A) を回し、傾斜角度の微調整をしてください。
ノブ (A) を時計方向に回すと、ヘッド部は左側へ、反時計方向に回すとヘッド部は右側へ微調整できます。
- (3) 傾斜角度調整が終わりましたら、クランプレバーを本締めし、ヘッド部を固定してください。

- 左傾斜 48°または右傾斜 48°にしたい場合は、ベベルプレート後方へ引き、ヒンジが 8 mm ボルト (A) または 8 mm ボルト (B) に突き当たるまで、左傾斜または、右傾斜してください。簡単に左傾斜 48°または、右傾斜 48°にセットすることができます。

切断方法

⚠ 警告

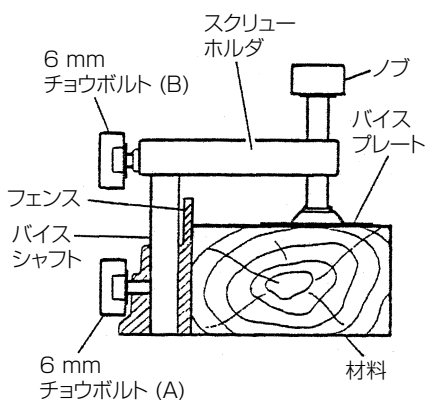
- のこ刃を回転させたまま材料の取付け、取りはずしをしないでください。
のこ刃に巻き込まれて周囲に飛散するなど、けがの原因になります。

1. スイッチの操作

スイッチ引金を引くと入り、はなすと切れます。(8 ページの下図参照)

2. バイス装置の使い方

- 注** • ヘッド部 (8 ページの上図参照) を押し下げたとき、ヘッド部がバイス装置に接触しないか確認してください。左傾斜切断の場合は、ヘッド部 (8 ページの上図参照) に接触しないよう右側にバイス装置を取付けて作業してください。



- (1) バイス装置は左右のフェンス (8 ページの上図参照) に取付けできます。

調整後、フェンス後方の 6 mm チョウボルト (A) を締め、バイスシャフトを固定します。(左図)

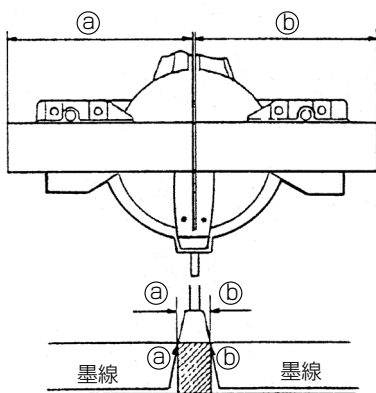
- (2) スクリーホルダの位置を調整し、スクリーホルダ後方の 6 mm チョウボルト (B) を締め、スクリーホルダを固定します。
- (3) ノブを回して、材料を固定します。

3. 切断作業

警告

- 切断後はのこ刃が完全に停止してからハンドルを持ち上げてください。
切断後、のこ刃を回転させたままハンドルを持ち上げると、強い反発力が生じたり、また切り落とし側が薄い場合は、切り落した材料がのこ刃に巻込まれて周囲に飛散するなど、けがの原因になります。
- 1回の切断または切り込みが終わるごとに、スイッチ引金を切つてのこ刃の停止を確認し、ハンドルを持ち上げ、もとの位置に戻してください。
- ターンテーブル上面から切り落した材料を必ず取り除いてから、次の段取りをしてください。
- 連続的に切断作業しますと、モーターが過負荷状態になります。モーター部を手で触れて熱く感じるような場合は、切断作業を10分程度停止させてから切断作業をしてください。
- 万一の事故を防止するため、作業後は必ずスイッチ引金を切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

- 注** • 切り込むとき、ハンドルに力を入れすぎても早く切れません。力を入れすぎるとむしろモーターに無理をかけ、能率も悪くなります。



(正面から見た場合の図)

- (1) 材料を切断する際、のこ刃の厚み分が切削されますので、**Ⓐ**の長さが必要な場合は、墨線をのこ刃の左側面に合わせます。
Ⓑの長さが必要な場合は、右側に合わせます。(左図)
- (2) スイッチ引金を引いて、のこ刃の回転が完全に上がって安定してから、ハンドルを静かに押し下げて材料に近づけます。
- (3) のこ刃が材料に接したらハンドルを徐々に押し下げ、材料に切り込みを与え、切断します。
- (4) 切断が終わったところでスイッチ引金を切り、のこ刃が完全に停止してからハンドルを持ち上げ、もとの位置に戻します。

4. 傾斜切断

警告

- 材料を左側で固定し、左傾斜切断をした場合、あるいは、右側で固定し、右傾斜切断をした場合、切り落とし側の材料がのこ刃の上側にのる状態となります。

のこ刃が完全に停止してから、ハンドルを持ち上げ、もとの位置に戻してください。

のこ刃を回転させたままハンドルを持ち上げると、切り落とし側の材料がのこ刃に巻き込まれ周囲に飛散することがあり、けがの原因になります。

- 傾斜切断を途中で中断したときは、必ず最初の切断位置までヘッド部（8ページの上図参照）を戻してから、再度切断を始めてください。

中断した位置から切断を始めると、切断したのこ刃溝に保護カバーが入りこんで変形し、のこ刃に接触する恐れがあり、けがの原因になります。

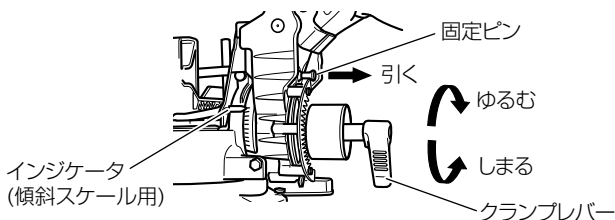
- 左傾斜切断の場合は、サブフェンス（B）を左にまわして作業してください。（19ページ左上図参照）

左にまわさないとサブフェンス（B）に本体やのこ刃があたり、けがの原因になります。

- 右傾斜切断の場合は、サブフェンス（A）を右にまわして作業してください。

右にまわさないと、サブフェンス（A）に本体やのこ刃があたり、けがの原因になります。

- (1) クランプレバーをゆるめ、ヘッド部（8ページの上図参照）を左側または、右側に傾斜させます。ただし、右側に傾斜させる場合は、下図に示すように固定ピンを矢印方向に引きます。
- (2) インジケータ（B）（傾斜スケール用）を希望の傾斜角になるよう傾斜スケールの目盛に合わせ、クランプレバーを締めてヒンジを固定します。
- (3) 傾斜角度の微調整については、25ページの「9. 傾斜角度の微調整について」の項を参照してください。
- (4) 切断作業は、27ページの「3. 切断作業」の項を参照してください。

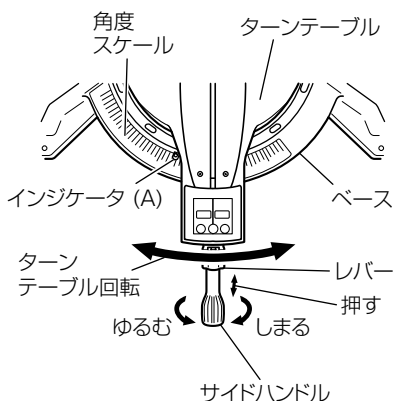


5. 角度切断

⚠ 警告

- ターンテーブルの角度調整後は、サイドハンドルを確実に締付けてください。作業中ターンテーブルが動き、思わぬけがの原因になります。

注 • ターンテーブルを 0° および左右 15° 、 22.5° 、 31.6° 、 45° 回転させたところに角度ストッパがついています。この角度にセットしたいときは、レバーを押し下げて、角度ストッパを解除し、ターンテーブルを回転してレバーをはなします。次に、ターンテーブル固定用のサイドハンドルを少し左右に動かしてみても位置の安定およびターンテーブルの角度スケールとインジケータ (A) (角度スケール用) 先端が一致していることを確認し、サイドハンドルを締めてください。



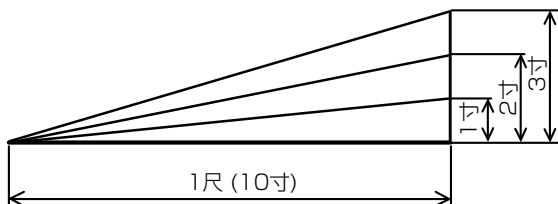
- (1) ターンテーブルを回転させると、左右 52° までの角度切断ができます。サイドハンドルをゆるめ、レバーを押し下げて角度ストッパを解除し、ターンテーブルをまわしてインジケータ (A) (角度スケール用) を角度スケールの度数目盛に合わせます。(左上図)

希望の角度に設定した後、サイドハンドルを締め、ターンテーブルを確実に固定します。

- (2) ベースの角度スケールには、度数目盛と勾配目盛を表示しています。

勾配目盛は、左下図に示すように水平距離 1 尺 (10 寸) に対する立上り寸で表しています。たとえば勾配目盛 $5/10$ は 5 寸勾配を表わしています。

材料を 5 寸勾配の角度で切断するときは、インジケータの赤線を勾配目盛の $5/10$ に合わせます。



6. 複合（角度＋傾斜）切断

警告

- 左傾斜による複合（角度＋傾斜）切断の場合は、サブフェンス (B) を左にまわして作業してください (19 ページの左上図参照)。
左にまわさないとサブフェンス (B) に本体やのこ刃があたり、けがの原因になります。
- 右傾斜による複合（角度＋傾斜）切断の場合は、サブフェンス (A) を右にまわして作業してください。(18 ページの図参照)。
右にまわさないと、サブフェンス (A) に本体やのこ刃があたり、けがの原因になります。

左傾斜複合切断により「配付けだる木加工」ができます。

- 注** • のこ刃が傾斜 45° の場合、ターンテーブル回転角度は最大 45° です。
幅 55 mm までの配付けだる木加工の場合、切断時の高さ 55 mm がすみ木接合方向の幅 55 mm となります。

前ページの 4、5 項の操作により傾斜と角度切断を合わせた複合切断ができます。

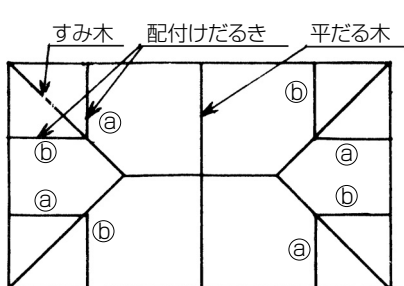
複合切断により配付けだる木加工ができます。

幅 55 mm までの配付けだる木加工の場合、のこ刃 45° に傾斜させ、ターンテーブルを回転し、インジケータ (A) を希望の勾配目盛に合わせて切断します。屋根勾配が 5 寸勾配のときは、勾配目盛の 5/10 を合わせます。

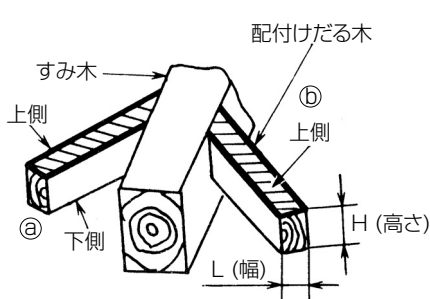
ターンテーブルの回転方向により、すみ木への接合方向が 31 ページの下表に示すよう異なりますので十分注意してください。

なお、加工寸法を 31 ページの上表に示します。

幅 55 mm の配付けだる木加工			
屋根勾配	のこ刃 傾斜角度	ターンテーブル 回 転 角 度 (勾配度数目盛)	配付けだる木加工寸法 切断 L (幅) × H (高さ) (mm)
2 寸勾配	45°	2/10 (11.5°)	55 × 157
2.5 寸勾配	45°	14°	55 × 155
3 寸勾配	45°	3/10 (16.5°)	55 × 153
3.5 寸勾配	45°	19.5°	55 × 151
4 寸勾配	45°	4/10 (22°)	55 × 148
4.5 寸勾配	45°	24°	55 × 146
5 寸勾配	45°	5/10 (26.5°)	55 × 143
5.5 寸勾配	45°	29°	55 × 140
6 寸勾配	45°	6/10 (31°)	55 × 137



(屋根を真上から見た場合)



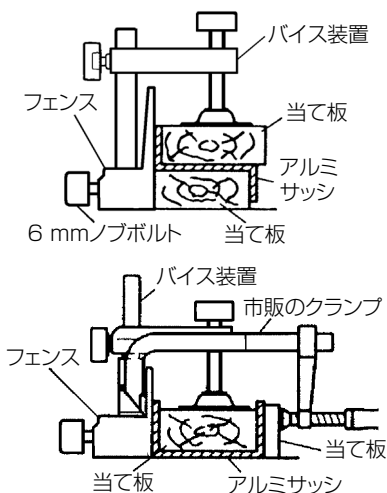
加工寸法	加工方法	注意事項
幅 55 mm までの配 付けだる 木	<p style="text-align: center;">5 寸勾配の例</p>	<p>図中、配付けだる木①、②の太線側が、すみ木接合時の上側(斜線部)になります。(上右図参照)</p>

7. アルミサッシなどの変形しやすい材料を切断する場合

警告

- 材料はバイス装置で確実に固定してください。
材料の固定が不十分ですと材料が変形してのこ刃がはさみ込まれ、材料が飛散し、けがの原因になります。
- 切削油（軽油、スピンドル油）を使用するときは、周囲に火気のないことを確認してください。

注 ●アルミ材切断時は刃物の刃先に切削油（軽油、スピンドル油）を塗布して切断すると、無理がなくきれいな仕上面が得られます。



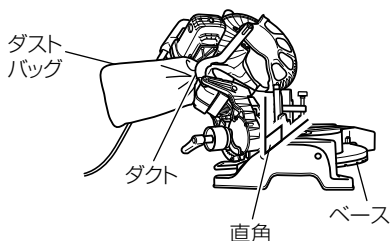
アルミサッシなどの板厚の薄い材料は変形しやすいため、当て板を使用せずバイス装置で締付けると変形し、モーターに無理な負担がかかるばかりでなく、切断時材料が不意にばたつき、のこ刃に衝撃的な力が加わることがあります。

変形しやすい材料を切断する場合は、左上図で示すように必ず当て板を使用し、材料の切断部の近くまではさんでバイス装置で締付けてください。

さらにU形状の材料の場合は、横方向の固定を確実にするため、左中図で示すように当て板を使用し、材料の切断部の近くまではさんでバイス装置と市販のクランプを併用して締付けてください。

8. ダストバッグの使い方について

- 注** ●傾斜切断の場合は、切りくずがつまりやすくなり、ダクト、ギヤケース内に切りくずがつまることがあります。早目にダストバッグから切りくずを取り除いてください。
- 木材加工後にアルミサッシ材を切断するときは、ダストバッグ内の切りくずをすててから作業してください。



- (1) ダストバッグ内に切りくずがいっぱいになると、手前に切りくずが飛散します。いっぱいになる前にダストバッグより切りくずを取り除きます。
- (2) 傾斜切断の際は、左図のようにベース面とほぼ直角になるようダストバッグを取付けて使用してください。

のこ刃の取付け・取りはずし

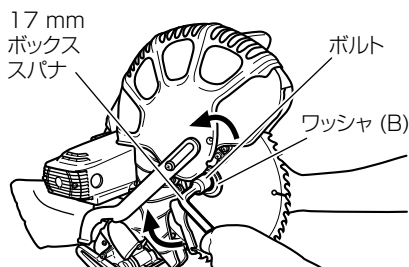
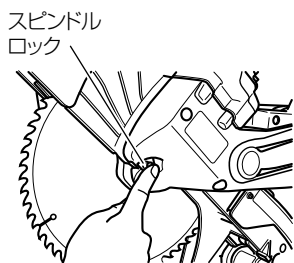
⚠警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチ引金を切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。
さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前にボルトが確実に締付けられていることを確認してください。
- のこ刃固定用のボルトは、ゆるまないよう付属の 17 mm ボックススパナで確実に締付けてください。
ボルトが締まっていない状態で切断作業をすると、ボルトがゆるんでのこ刃がはずれ、保護カバーが破損する場合があります、けがの原因になります。
- 付属の 17 mm ボックススパナ以外の工具を使用してボルトを着脱すると、締過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

⚠注意

- 機体に表示してある回転方向と、のこ刃の回転方向のマークが同じ向きになるようにのこ刃を取付けてください。
- のこ刃の取付け、取りはずしに使用したスピンドルロックが元の位置に戻っていることを確認してください。

1. のこ刃の取付け



- (1) スピンドルロックを押したまま、ボルトに付属の 17 mm ボックススパナを掛け、ゆっくりと回転させるとスピンドルロックが入り込み、のこ刃軸が固定（のこ刃が回転できない状態）されます。（左上図）
ボルトは左ねじになっているので左下図のゆるむ方向に、付属の 17 mm ボックススパナで回すとゆるみます。
- (2) ボルト、ワッシャ (B) を取りはずします。
- (3) 保護カバーを持ち上げ、のこ刃を取付けます。
- (4) ワッシャ (B)、ボルトに付いている切りくずを良く除去し、のこ刃軸に取付けます。

- (5) スピンドルロックを押し、のこ刃軸を固定した状態で、ボルトに付属の 17 mm ボックススパナを掛けて、前ページの左下図の締まる方向にまわすと、ボルトが締まります。

2. のこ刃の取りはずし

のこ刃の取付けの項の要領でのこ刃を取りはずしてください。

保守・点検

⚠ 警告

- 点検・手入れの際は、必ずスイッチ引金を切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

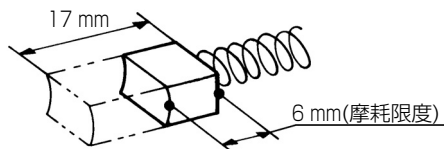
1. のこ刃の交換

⚠ 警告

- 切れ味の悪くなったのこ刃はそのまま使用しないでください。
無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

のこ刃の切れ味が悪くなったまま使用しているとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますから早めに新品と交換してください。

2. カーボンブラシの交換



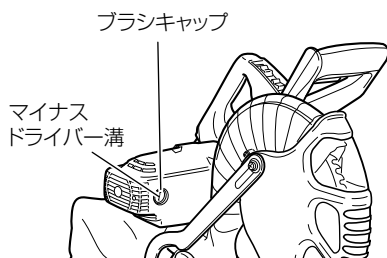
モーター部 (8 ページの上図参照) には、消耗品であるカーボンブラシを使用しています。カーボンブラシの摩耗が大きくなると、モーターの故障の原因になります。長さが摩耗限度 (左図参照) の 6 mm ぐらいになりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシは、ごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

(次ページへつづく)

- 注** •新品のカーボンブラシと交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。
指定外のカーボンブラシを使用すると、ブレーキがかからなくなります。

交換方法



- (1) カーボンブラシは、マイナスドライバーなどでブラシキャップをはずすと取り出せます。カーボンブラシは、必ず2個同時に交換してください。
- (2) 新品のカーボンブラシに交換後、ブラシキャップを取付けます。

3. モーターの取扱いについて

モーター（内蔵）(8 ページの上図参照) に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

- 注** •ごみやほこりを排出するため、50 時間ぐらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させて、湿気のない空気をモーター後部の風穴から吹き込んでください。
モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

4. 機体の点検

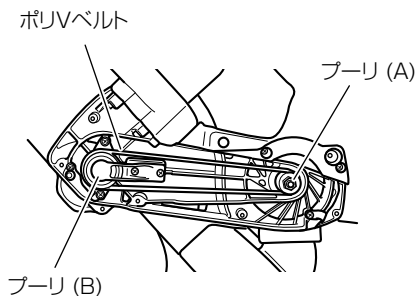
各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

5. 保護カバーの動作点検と保守

保護カバー（16 ページの図参照）は、いつも円滑に動作するようにしてください。

なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。

6. ポリVベルトの交換



この刃は、モーターの回転力をポリVベルトで伝達し駆動しています。(左図)

ポリVベルトが切れた場合には、ベルトカバー(8ページの下図参照)を固定している5mm小ねじ(3本)(8ページの下図参照)をゆるめ、ベルトカバーをはずして新しいポリVベルトと交換してください。

最初はプーリ(A)、(B)の溝にポリVベルトを2～3山掛けします。次に、プーリ(A)、(B)をまわしながら、ポリVベルトの全山数をかけてください。

7. 注 油

機体を長持ちさせるため、月一度の割で注油点に注油してください。(8ページの上、下図参照)(油はマシン油が適当です。)

注油点

- ヒンジの回転部
- バイス装置のねじ部

8. 清 掃

ときどき機体に付いている切りくずや、ごみを布などで拭き取ってください。モーター部(8ページの上図参照)は水や油でぬらさないようにしてください。

9. 機体や付属品の保管

機体や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- | | | |
|--|---|---------------------|
| <ul style="list-style-type: none">○ お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所○ 軒先など雨がかったり、湿気のある場所○ 温度が急変する場所○ 直射日光の当たる場所○ 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所 | } | このような場所
には保管しない。 |
|--|---|---------------------|

メ 毛

メ 毛

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ


お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>